

公益財団法人 千里ライフサイエンス振興財団

1. 法人の概要

【令和4年7月1日現在】 【役員名簿】

代表者名	理事長 審良 静男	設立年月日	平成2年7月31日
電話番号	06(6873)2001	法人所管課	商工労働部成長産業振興室ライフサイエンス産業課
所在地	豊中市新千里東町1-4-2	HPアドレス	https://www.senri-life.or.jp
設立目的	大学、試験研究機関、産業、行政の連携・交流を促進するとともに、研究とその実用化を支援することにより、ライフサイエンス分野における大阪の優れた特性を更に伸ばし、研究・開発と産業の活性化を通じて社会に貢献することを目的とする。		
一般財団法人または公益財団法人移行年月日	平成22年4月1日		
主な出捐団体(出捐割合)	大阪府	1,000,000 千円	32.9%
	(株)りそな銀行	100,000 千円	3.3%
	阪急電鉄(株)	100,000 千円	3.3%
	武田薬品工業(株)	100,000 千円	3.3%
	その他の団体	1,740,500 千円	57.2%
出捐総額	3,040,500 千円		
備考 (基本財産)	3,040,500 千円		

2. 役員員の状況

(単位:人) 【各年度7月1日時点】

	令和2年度		令和3年度			令和4年度		
	府派遣	府OB	府派遣	府OB	府派遣	府OB	府OB	
役員	常勤役員	1	0	1	0	1	1	0
	非常勤役員	12	0	11	0	10	0	0
職員	管理職	0		0		0		0
	一般職	0		0		1		0
	プロパー職員	0		0		0		0
	その他	4	0	4	0	4	0	0
	常勤職員計	4	0	4	0	5	0	0
	常勤以外の職員	6		6		5		1
	プロパー職員(0)	人の給与に関する状況(令和3年度)						

年間給与手当支給額平均	千円	平均年齢	歳
-------------	----	------	---

役職名	氏名	現職名	現任期終了	備考
理事長	審良 静男	国立大学法人大阪大学 免疫学フロンティア研究センター特任教授	R5.6	
専務理事	小原 理恵	大阪府商工労働部理事	R5.6	常勤
理事	北村 惣一郎	国立研究開発法人国立循環器病研究センター名誉総長	R5.6	
理事	木村 徹	住友ファーマ(株)代表取締役専務執行役員	R5.6	
理事	塩田 武司	塩野義製薬(株)執行役員経営戦略本部 経営企画部長	R5.6	
理事	中山 譲治	第一三共(株)常勤顧問	R5.6	
理事	廣田 直美	武田薬品工業(株)日本開発センター所長	R5.6	
理事	岡田 利也	大阪公立大学大学院 獣医学研究科長	R5.6	
理事	藤尾 慈	国立大学法人大阪大学大学院薬学研究科長	R5.6	
理事	熊ノ郷 淳	国立大学法人大阪大学大学院医学系研究科長	R5.6	
監事	土井 信幸	土井公認会計士事務所公認会計士・税理士	R7.6	
役員員の定数・任期・選任方法				
定数	理事	7名以上12名以内		
	監事	2名以内		
任期	理事	2年		
	監事	4年		
選任方法	理事及び監事は、評議員会の決議により選任する 理事長及び専務理事は、理事会の決議により理事の中から選定する			

3. 主要事業の概要

公益財団法人 千里ライフサイエンス振興財団

【事業規模(事業費)】

(単位:千円)

事業名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度 予算	備考
① 研究助成支援事業	32,104	31,854	33,967	33,181	ライフサイエンス分野における若手研究者への研究助成
全事業合計に占める割合	24.5%	26.8%	26.4%	20.9%	
② 研究及び実用化支援事業	17,305	15,777	17,153	7,978	ライフサイエンス分野における研究とその実用化・事業化を支援
全事業合計に占める割合	13.2%	13.2%	13.3%	5.0%	
③ 普及啓発事業	10,696	8,173	10,551	17,761	ライフサイエンス分野に関する知識・情報等を市民公開講座等を通じ普及する
全事業合計に占める割合	8.2%	6.9%	8.2%	11.2%	
④ 人材育成事業	16,632	3,816	5,905	31,255	ライフサイエンス分野の発展基盤を支えるため、研究交流を通じた研究人材を育成
全事業合計に占める割合	12.7%	3.2%	4.6%	19.7%	
⑤ ①～④以外の事業	54,193	59,458	61,293	68,429	財団の管理運営等
全事業合計に占める割合	41.4%	49.9%	47.6%	43.1%	
全事業合計	130,930	119,078	128,869	158,604	

※単位未満は四捨五入を原則としたため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

【事業計画及び事業実績】

事業内容	事項	事業量		備考
		令和3年度実績	令和4年度計画	
1 人材育成事業	(1)千里ライフサイエンスセミナーの開催 開催回数・参加者数	6回・1,776人	5回・3,220人	R3実績はWeb開催で人数は最大アクセス数 (1回目だけハイブリッド開催) R4計画はリアル参加者数+Web延べアクセス数 R3実績はWeb開催で人数は最大アクセス数 R4計画はリアル参加者数+Web延べアクセス数
	(2)新適塾の開催 開催回数・参加者数	12回・1,976人	12回・2,160人	
2 研究助成支援事業	(1)若手研究者の研究支援 応募件数・採択件数	245件・15件	200件・15件	
3 普及啓発事業	(1)千里ライフサイエンスフォーラムの開催 開催回数・参加者数	11回・810人	11回・-	R3実績は録画配信で人数は延べアクセス数 参加者数の計画数は設定なし
	(2)広報活動 ホームページアクセス件数	12,619件	13,000件	
4 研究及び実用化支援事業	(1)日本医療研究開発機構「橋渡し研究 戦略的推進プログラム」の活用 産学連携競争的資金獲得件数	6件	-	獲得件数の計画数の設定はなし

4. 大阪府の財政的関与の状況

(単位:千円)

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度 予算	補助金、委託料等の内容
補 助 金	0	0	0	0	
委 託 料	0	0	0	0	
貸 付 金	0	0	0	0	
その他(分担金・負担金・出捐金等)	1,644	1,659	1,659	1,660	
共用会議スペースの負担金 (負担金)	1,644	1,659	1,659	1,660	共用会議スペースの負担金
合 計	1,644	1,659	1,659	1,660	

府損失補償・債務保証契約に係る債務残高(期末)	0	0	0
府借入金残高(期末)	0	0	0

5. 財務状況

(単位:千円)

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比増減	分析・評価
貸借対照表	資産合計	4,335,352	4,348,504	4,332,176	△ 16,328	(現金預金)
	流動資産	62,482	74,569	89,723	15,154	現金預金の増加については、運用利息が増加(8,816千円)したことが主な要因である。
	現金預金	30,302	35,945	46,610	10,665	
	未収金	30,316	36,777	41,292	4,515	
	その他流動資産	1,864	1,847	1,821	△ 26	
	固定資産	4,272,870	4,273,935	4,242,453	△ 31,482	(未収金)
	基本財産	3,041,898	3,038,670	3,006,904	△ 31,766	未収金の増加については、投資有価証券の未収利息が増加(4,530千円)したことが主な要因である。
	特定資産	1,229,964	1,230,426	1,231,012	586	
	その他固定資産	1,009	4,839	4,538	△ 301	
	負債合計	2,039	3,409	5,874	2,465	
	流動負債	2,039	3,409	5,874	2,465	
	短期借入金	0	0	0	0	(基本財産)
	未払金	1,173	2,526	4,940	2,414	定款上の基本財産(3,040,500千円)と貸借対照表上の基本財産との差は投資有価証券の償却原価法及び時価評価適用による会計上の差異であり、前年度より減少しているのは今年度投資有価証券評価損(32,027千円)を計上したことが主な要因である。
	その他流動負債	865	883	935	52	
固定負債	0	0	0	0		
長期借入金	0	0	0	0		
各種引当金	0	0	0	0		
その他固定負債	0	0	0	0		
正味財産合計	4,333,314	4,345,095	4,326,302	△ 18,793		
指定正味財産	3,427,625	3,445,012	3,433,133	△ 11,879		
一般正味財産	905,688	900,083	893,169	△ 6,914		

※単位未満は四捨五入を原則としたため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

(単位:千円)

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比増減	分析・評価
正味財産増減計算書	(一般正味財産増減の部)					(基本財産運用益)
	経常収益	123,514	113,472	122,027	8,555	基本財産運用益の増加については、指定正味財産増減の部の基本財産受取利息からの振替額の増(7,000千円)によるものである。 (事業費) 事業費の増加については、前年度は新型コロナウイルス感染症のため財団事業の開催が少なかったことに対し、今年度は全て開催できたことに伴う増(人材育成事業2,089千円、研究助成事業2,113千円、普及啓発事業2,379千円、実用化支援事業1,376千円)によるものである。
	基本財産運用益	66,902	51,000	58,000	7,000	
	特定資産運用益	17,605	22,309	24,759	2,450	
	受取会費	0	0	0	0	
	事業収益	1,264	256	232	△ 24	
	受取補助金等	4,699	5,820	5,806	△ 14	
	受取負担金	1,644	1,659	1,659	0	
	受取寄付金	30,099	31,000	30,106	△ 894	
	その他の収入(受取利息収入等)	1,301	1,428	1,466	38	
	経常費用	130,930	119,078	128,869	9,791	
	事業費	76,737	59,620	67,577	7,957	
	管理費	54,193	59,458	61,292	1,834	
	当期経常増減額	△ 7,416	△ 5,606	△ 6,842	△ 1,236	
	経常外収益	0	0	0	0	
	経常外費用	0	0	72	72	
当期経常外増減額	0	0	△ 72	△ 72		
当期一般正味財産増減額	△ 7,416	△ 5,606	△ 6,914	△ 1,308		
(指定正味財産増減の部)						
基本財産運用益	67,141	61,367	65,367	4,000		
特定資産運用益	7,932	10,485	12,781	2,296		
基本財産評価損益	0	△ 3,466	△ 32,027	△ 28,561		
一般正味財産への振替額	△ 66,902	△ 51,000	△ 58,000	△ 7,000		
当期指定正味財産増減額	8,170	17,387	△ 11,879	△ 29,266		
正味財産期末残高	4,333,314	4,345,095	4,326,302	△ 18,793		

※単位未満は四捨五入を原則としたため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

(単位:千円)

仕組債の保有状況	保有総額<令和3年3月31日時点>	保有総額(A)<令和4年3月31日時点>	時価評価額(B)<令和4年3月31日時点>	保有総額と時価評価額差(B)-(A)
	2,500,000	2,485,000	2,509,949	24,949

主な経常費用	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比増減	分析・評価
役員人件費	13,214	13,229	13,330	101	
職員人件費	29,545	31,865	33,546	1,681	
退職給付費用	0	0	0	0	
減価償却費	324	277	229	△ 48	

主要経営指標		令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比増減	分析・評価
公益目的事業比率	公益事業費用／経常費用	58.6%	50.1%	52.4%	2.4%pt	(流動比率) 流動比率の減少については、財団事業のWebによる全事業再開の経費が増加したことによる未払金の増に伴う流動負債の増が主な要因である。
人件費比率	人件費／経常費用	32.7%	37.9%	36.4%	-1.5%pt	
自己収入比率	自己収入／経常収益	40.7%	48.5%	46.4%	-2.1%pt	
流動比率	流動資産／流動負債	3064.3%	2187.4%	1527.5%	-660.0%pt	
借入金比率	借入金残高／負債・正味財産合計	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%pt	

6. R3年度 経営目標の達成状況

I. 最重点目標(成果測定指標)								
戦略目標	成果測定指標	単位	R2実績値	R3目標値	R3実績値	ウエイト	得点	小計
① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	千里ライフサイエンスセミナー参加者数 (リアル参加者数+Web最大アクセス数)	人	617 ※年2回開催	1,800 ※年6回開催	1,776 ※年6回開催	30	0	0/30 【0%】
II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)								
① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	千里ライフサイエンスセミナー参加者満足度 (「大いに役立った」+「役立った」/全回答)	%	95.2	90.1	96.5	10	10	54/55 【98%】
② 優れた若手の先進的研究を積極的に支援・助成	岸本基金研究助成件数	件	15	15	15	5	5	
	岸本基金研究助成応募件数	件	181	174	245	10	10	
③ 研究成果の実用化を支援	産学連携競争的資金獲得件数	件	6	6	6	15	15	
④ ライフサイエンスの情報発信拠点づくり	千里ライフサイエンスフォーラム参加者数	人	506	800	810	10	10	
	ホームページ総アクセス件数(月平均)	件	8,962	13,000	12,619	5	4	
III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)								
⑤ 経営基盤の強化	効率的・効果的な資金運用	億円	0.94	0.90	1.03	10	10	15/15 【100%】
⑥ 経営資源の有効活用	総労働時間(マンパワーの効率化)	時間	3,720	3,700	2,993	5	5	

※1 網掛けは目標達成項目。

※2 目標値が前年度実績以上の場合、当該年度の実績値が目標値に到達しないときでも、達成状況に応じて加点を行う。

※3 小計の【 】は得点率。

7. 法人による評価結果

法人の総合的評価結果	点数(合計)
<p>・「千里ライフサイエンスセミナーの参加者数」については、第1回から第5回まではいずれも250人を超えていたが、第6回(R4年1月28日開催)だけ199人と低調だったことからわずかに目標を達成できなかった。この理由は、大学院生、学部生の参加者数が少なかったことから、時期的に終日の参加が難しかったことなどが考えられる。また、「セミナーの参加者満足度」については好評であり目標を達成した。</p> <p>・岸本基金研究助成については、若手研究者の先進的な研究成果の応募が多数あり、助成件数は目標の15件を決定することができた。応募件数は若手研究者のニーズや時代の要請に応じ、R3年度よりオンライン申請システムを導入し改善を図ったことや、R3年度は「岸本基金研究助成10周年誌」を作成し全国の医学部に郵送し周知を図ったことなどから目標をはるかに上回り達成した。</p> <p>・「産学連携競争的資金獲得件数」については、大阪大学と緊密な連携を取ることで、目標の6件を獲得することができた。</p> <p>・「千里ライフサイエンスフォーラムの参加者数」については、かろうじて目標を達成したが、現在会員の高齢化が進み、新会員の獲得が課題となっており、そのためにどのような形のフォーラム開催がいいのか、今後会員の意見を聞きながらそのあり方を検討していく。</p> <p>・「ホームページ総アクセス件数」は、セミナー等のイベント参加者等の利便性を考え、QRコードを設定し目的のページへダイレクトに導くようにしたことが逆に目的ページ以外のページへの立ち寄りを減少させることとなった。特に12月のアクセス件数が低かった理由は、他の月と比べてイベントが少なく、新適塾とフォーラムだけだったことと年末の休みもあったことが原因と考えられる。また、財団HPはSSL暗号化が図られていないことからセキュリティに対する不安もあったと考えられ、R4年4月に財団HP全体をSSL暗号化(http→https)にした。</p> <p>・「効率的・効果的な資金運用」については適切な運用に加え、円安基調で推移したことから為替連動仕組債の利息が増え目標を達成したが、今後の世界経済、為替相場など、金融情勢を注視し今後ともより効率的な資金運用を行っていく。</p> <p>・「経営資源の有効活用」については、職員の経験値の増加やスキルアップ、また事務の簡素化や行事開催で時間外勤務が事前に予測される場合の勤務時間変更を可能とする規程整備などで時間外勤務削減の取組みを行い、総労働時間はほぼ正規の勤務時間どおりとなった。</p>	69

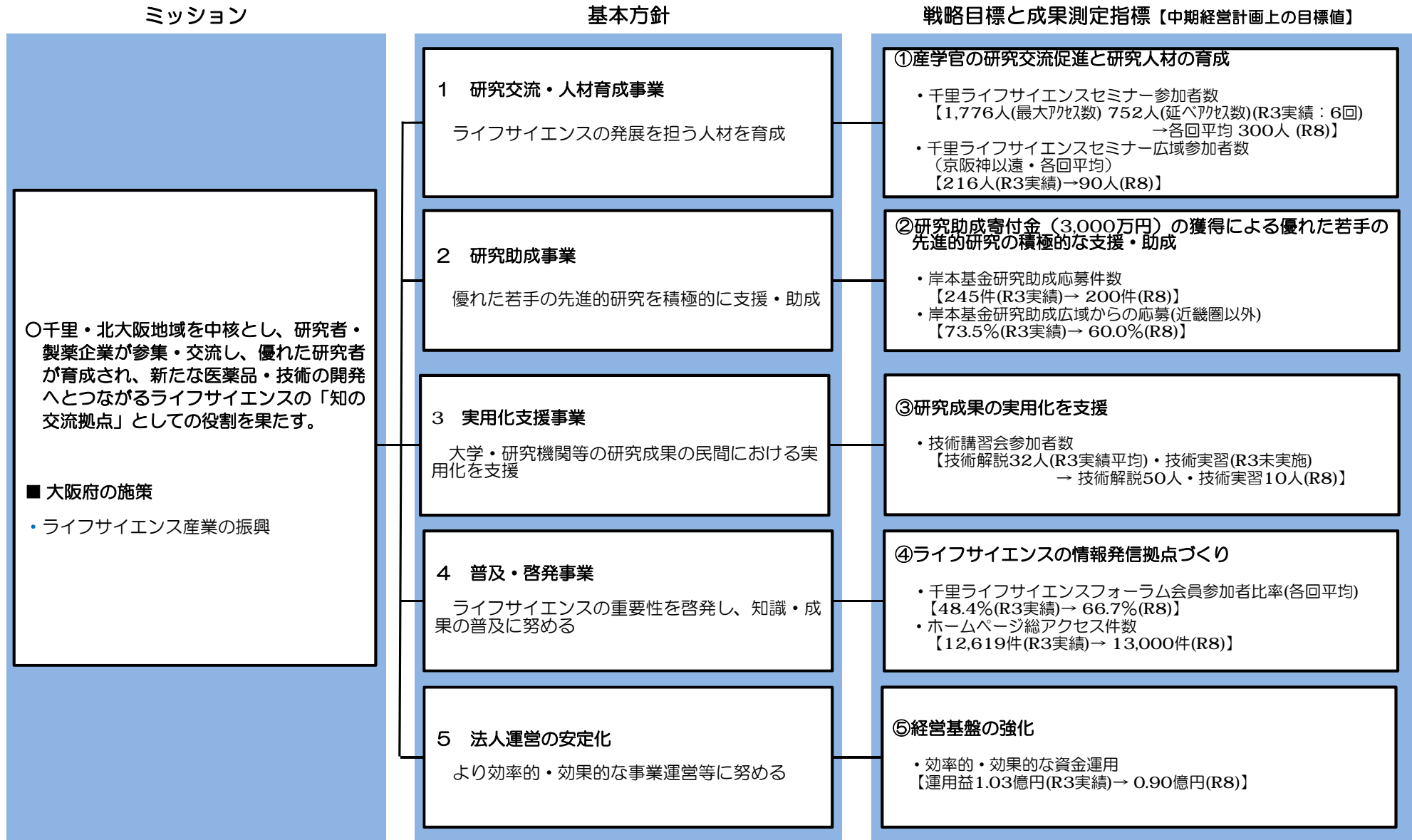
8. 府の審査・評価の結果

審査の結果	経営状況、事業の実施状況その他の事項に関する府の評価結果及び指導・助言	点数(合計)	役員業績評価
<p>○最重点目標 「千里ライフサイエンスセミナー」については、R2年度の2回開催からR3年度は6回開催することで戦略目標の「産学官の研究交流促進と研究人材の育成」の機会と参加者総数の大幅拡充が図られた。R3年度と同セミナー参加者数については、わずかに目標未達成だが、目標値の98.7%の水準を確保し、参加者満足度は、目標値を大きく上回る96.5%という結果であった。</p> <p>○事業効果、業績、CS ・4項目6指標のうち、5指標で目標達成。 ・とりわけ「岸本基金研究助成応募件数」は、若手研究者のニーズを踏まえたオンライン申請システムの導入や全国規模の周知活動など、法人の取組みもあり、R3年度は対R2年度比約35%増の245件の応募があった。 ・「ライフサイエンスの情報発信拠点づくり」は、フォーラム参加者数が対R2年度比60%増、ホームページ総アクセス件数が対R2年度比40%増(R3年度目標未達。達成度約97.1%)と、ともに大幅に増加し、高い事業効果を発揮した。</p> <p>○財務、効率性 ・「経営基盤の強化」については、仕組債の利息が増え目標達成したほか、効率的・効果的な資金運用を実施できている。 ・「経営資源の有効活用」は、柔軟な働き方に対応できる規程の整備等により「総労働時間」をR2年度比概ね2割縮減。</p> <p>今後も、ライフサイエンス分野に関する高度・専門的な知見と幅広いネットワークと、これまで蓄積してきたノウハウを最大限に生かし、法人の果たす役割をまっとうするとともに、2025年大阪・関西万博とも連携し、相乗効果を発揮する新たな取組みなど、未来を見据えた事業を期待する。</p>	<p>(評価) ・「岸本基金研究助成応募件数」について、若手研究者のニーズを踏まえたオンライン申請システムの導入等により、前年度から大幅に応募件数を増加させた点は評価できる。</p> <p>(指導・助言) ・「千里ライフサイエンスセミナー」については、ライフサイエンス分野の発展を担う研究人材の育成、またWebやハイブリット開催においても知の交流拠点としての役割を果たせるよう、令和4年度からの新たな中期経営計画に基づいた効果的な取組みを進めること。なお、セミナー参加者数については、より実態を的確に捉えるカウント方法及び目標数値の設定方法の検討を行うこと。 ・事業の実施にあたっては、財源が基本財産等の運用益に限られていることを踏まえ、国庫補助金や寄付金の活用など、積極的な外部資金の獲得に努めるとともに、効率的な事業実施に努めること。</p>	<p>69</p>	<p>B</p>

9. 「平成30年度大阪府行政経営の取組み」における方向性(平成30年2月)

<p>○存続 ・ライフサイエンス分野の専門的役割を担う法人として事業を継続する</p>

10. 経営目標設定の考え方



11. R4年度 目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)

戦略目標	成果測定指標	単位	R2実績値	R3実績値	R4目標値	ウエイト(R4)	中期経営計画最終年度目標値(R8)	
① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	千里ライフサイエンスセミナー参加者数(各回平均) (リアル参加者数+Web延べアクセス数)	人	(773)	(752)	644	30	300	
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)								具体的活動事項
最重点とする理由、経営上の位置付け	<p>○財団は設立当初より、ライフサイエンス分野の発展を担う創造性・独創性豊かな産・学・官の研究人材の育成・質的向上を支援する事業を特に重要な事業と考えている。</p> <p>○前計画(H29～R3)の実績を見ても千里ライフサイエンスセミナーや新適塾の参加者満足度調査とも一定の評価が確立してきた。そこで千里の地から全国への情報発信を狙いとし、旬のテーマを選び全国の第一線の研究者を招いて実施しているセミナーを最重点目標としたい。</p> <p>○この場での触発を通じ、新たなイノベーションを生み出す若手研究人材の裾野を広げていくことこそが、財団の設立精神である「知の交流拠点」を実現したものであることから、産学官の研究交流促進と研究人材の育成を目指した千里ライフサイエンスセミナーへの参加者数を、最重点の成果測定指標とした。</p>							
最重点目標達成のための組織の課題、改善点	<p>○企画委員会で各委員(アカデミア・企業の22名)から旬のテーマ提案を募り、協議の上、毎年5テーマを選定し、これらのテーマに関する日本を代表する研究者をコーディネーター候補に選定。当該コーディネーターに、発表者選定を委任する運営を確立し、魅力あるセミナーの企画を行っている。</p> <p>○今後も、積極的な広報活動や新鮮でエキサイティングなテーマ設定、当日の意見交換の場の確保などにより、参加者及び満足度の安定的な確保を図るとともに、全国的なライフサイエンスの拠点として広く認知され、より幅広い人材の交流がなされるよう、取り組んでいく。</p>							
活動方針	<p>○事業の企画等を検討する企画委員会において、上記を踏まえた十分な検討を行い魅力ある旬のテーマ設定やコーディネーター・講師の選定を行う。</p>							
								<p>○セミナーの個別テーマについては、企画委員会で十分協議し、各テーマと担当コーディネーターを具体的に選定。</p> <p>○北海道から九州まで各大学、研究機関の第一線研究者から選定し、全国から幅広く参加者を募っている。また、若手研究者からの発表も可能となるよう、発表時間(短時間)を工夫している。</p> <p>○セミナー参加者の増加に向け、関係する学会誌・業界専門誌及び各ホームページなどへの無料掲載等により周知・広報に努めている。</p> <p>○R4年度はハイブリッド開催を原則とし、コロナ拡大防止のため感染状況の動向を見て、Webのみでの開催も検討する。</p>

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	単位	R2実績値	R3実績値	R4目標値	ウエイト(R4)	中期経営計画 最終年度 目標値(R8)	戦略目標達成のための活動事項
① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	千里ライフサイエンスセミナー広域参加者数 (京阪神以遠・各回平均)	人	(151)	(216)	150	10	90	企画委員会での議論を踏まえ、コーディネーターと協議を重ね、魅力あるテーマ、講師の選定を進める。
② 研究助成寄付金(3,000万円)の獲得による 優れた若手の先進的研究の積極的な支援・助成	岸本基金研究助成応募件数	件	181	245	200	10	200	財団HPで応募要領を開示するとともに、自然科学分野に関する学部・大学院を有する主要大学の学部長・研究科長に応募要領を送付し、市内での案内を依頼する。
	岸本基金研究助成 広域からの応募(近畿圏以外) (近畿圏以外応募件数/総応募件数)	%	(61.9)	(73.5)	60.0	10	60.0	全国の主要大学に応募要領を送付するなど積極的な周知を図るとともに、研究助成業務支援システムの導入により、全国から応募しやすい体制づくりを行う。
③ 研究成果の実用化を支援	技術講習会参加者数 (目標値;上段「技術解説」下段「技術実習」)	人	(46) ※延期しR3に実施 (コロナのため中止)	(18) (コロナのため中止)	50 10	10	50 10	関係学会、関係企業への広報及び財団HPへの掲載に加え、財団のメール会員への広報を検討する。
④ ライフサイエンスの情報発信拠点づくり	千里ライフサイエンスフォーラム 会員参加者比率(各回平均) (会員参加者数/会員数)	%	(47.9)	(48.4)	66.7	10	66.7 (会員数150)	会員の高齢化とともに新会員の増加が課題となっているが、会員にとって魅力あるフォーラムとするため、会員の意見を聞きながらそのあり方を検討していく。
	ホームページ総アクセス件数(月平均)	件	8,962	12,619	13,000	10	13,000	財団HPのコンテンツ充実、新規セミナーの掲載案内、メルマガへの掲載依頼等を通じ、財団HPへのアクセス件数の増を図る。
III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)								
⑤ 経営基盤の強化	効率的・効果的な資金運用	億円	0.94	1.03	0.90	10	0.90	資産運用規程に基づき、長期的な観点からのより効率的・効果的な資金運用を行う。

※ ()は当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値